

# 神戸女学院所蔵近代教育掛図

— 掛図にみる教育 —

吉 本 智 恵

## 一、掛図の歴史

神戸女学院大学図書館の本館は一九三三(昭和八)年に開館され、現在に至るまで当時の面影をそのまま残す歴史的な場所である。その図書館本館に、昭和初期に教育の場で使用されていたと思われる掛図が数点収蔵されている。

日本の教育制度は一八七二(明治五)年の「学制」公布により、従来の伝統的教育から近代教育へと大きく転換した。その教育改革の一環として、「教育の場に掛図が本格的に導入されたのは、一八七三(明治六)年からである」<sup>①</sup>。日本で最初の教授用掛図とは、東京師範学校が米国で初等教育用に刊行されていた各種の chart を模して作成したものである。それらの普及を目指し、文部省は同年五月以降に各府県での翻訳刊行を推進したため、「全国各地に創設された小学校において広く使用されるようになった」<sup>②</sup>。その後、掛図は改版を繰り返すとともに、語学、歴史学、地理学、物理学、化学、生物学、地学、天文学、工学、医学など幅広い分野のものが製作され、中学校、高等学校においても使用されていたのである。

掛図の果たした教育的役割とは、一八六八（明治初）年以降、子どもたち一人ひとりが原則として教科書を持つようになるまでは、唯一の共通教材として重要な位置を占めていたことである。さらに、一九〇四（明治三七）年以降に国定教科書の使用が開始されると、視覚的效果を目的として、教科書の要点などを強調して提示する教材として使用されるようになる。つまり、掛図は、「多数の子どもたちに同じ教材を同時に教授するという一斉教授法が導入され、展開」<sup>③</sup>されていったことを意味しているのである。

このように、掛図が教材として重要な意味をもっていたことは明らかであるが、従来の教科書研究や教材史研究においては十分に検討されてきたとはいえない。

その要因として、佐藤秀夫は、もともとの掛図の発行部数が少なかったこと、保管収蔵が困難、かつ使用による破損のしやすさといった点から、掛図の保存状態が史料として利用し難かったためであるとしている。さらには、掛図類の圧倒的多数はその史料的価値を見出されないまま、処分・散逸してしまい、保存されているのは僅かであるというのが現状である。

しかし、そのような状況の中でも、現存する教育掛図の史料的価値に着目し、調査研究を進める動きが近年では見られるようになってきている。その中心となっているのが京都大学である。<sup>④</sup>

そこで、今回、神戸女学院大学図書館に収蔵され、現在にまで伝わる貴重な史料である教育掛図を整理し、それらを紹介する。さらに、掛図から浮かび上がる教育のあり方について若干の考察を試みたい。

## 二、神戸女学院大学図書館所蔵教育掛図目録

【資料番号〇〇二】 歴代皇陵官国幣大社敬頌図大観

内題…「八紘一字 皇紀二千六百年 公爵一條実孝」 枠内に「靖國」、「藤原実孝」との朱印あり

外題…「八紘一字 皇紀二千六百年 歴代皇陵官国幣大社敬頌図大観 公爵一條実孝」(貼紙墨書)

刊記…「歴代皇陵官国幣大社敬頌絵 虹□ 謹画」(「マエダ」の朱印あり)

著作 茂□地述

印記…「神戸女学院会計課一九・三・一四」

外寸…一五八・〇×一二四・五 cm

解説…「八紘一字」とは、アジア太平洋戦争において、日本政府が現状打破、世界新秩序の精神的支柱を日本書紀に求めた結果、戦争を正当化するために用いられたスローガンである。「皇紀二千六百年」とは、『日本書紀』の神武天皇即位から数えて二千六百年目に当たるとされる昭和十五(一九四〇)年を指し、様々な記念・祝賀行事が催された。この掛図は、記念・祝賀行事の一貫として、公爵であり、政治家でもあった一條実孝(一八八〇—一九五九)が歴代の天皇陵と官国大社を作画させたものと考えられる。画面には、歴代の天皇陵と官国大社が一望できるように配置して描かれている。

【資料番号〇〇二】 景教流行中国碑頌並序の拓本

内題…「景教流行中国碑頌並序」

外寸…一九九・〇×九九・四 cm

注記…碑文末尾日付「大唐建中二歳在作噩太族月七日 大耀森文日建立」とは、西暦七八一年一月七日(日曜日)にあ

たる。現在、碑は西安碑林博物館に現存している。

解説…唐時代に建設された、キリスト教に関する碑である。「大秦」とはローマ帝国をさし、「景教」とは当時中国に流行した、キリスト教ネストリウス派の呼び名である。碑面には三三行、各行六二文字で、景教の教義と中国における布教の状況が記されている。本拓本は、正面のみである。正面の底部と両側には、エストラングロ(Estranglo)とよばれる、当時、主に伝道の場合に使用されていたシリア文字と漢字により、建立に関わった人物たちの姓名と職務、建碑の時、建碑人が刻されている。

【資料番号〇〇三】 寛永江戸図

内題…「寛永江戸図 国語読本教授用直観掛図」

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…九三・五×八〇・三 cm

解説…画面上方に江戸城が配置され、周辺の武家屋敷や町屋、長屋などは簡略化して描かれている。画面左下方には東京市路図として、宮城を中心に一五区が描かれている。

【資料番号〇〇四】 鎧着用の図

内題…「鎧着用の図 国語読本教授用直観掛図」

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…九一・〇×八〇・三 cm

解説…人物が鎧を着用していく順を追って描かれ、鎧のそれぞれの部位の名称が記されている。

【資料番号〇〇五】束帯の図

内題…「束帯の図 国語読本教授用直観掛図」

外題…束帯（ペン書）

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…九一・〇×七八・七 cm

解説…束帯を着用した人物が正面と後面から描かれ、それぞれの装束の名称が記されている。

【資料番号〇〇六】女官装束の図

内題…「女官装束の図 国語読本教授用直観掛図」

外題…女官束帯図（ペン書）

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…九二・〇×七九・五 cm

解説…女官が正面と後面から描かれ、それぞれの装束の名称が記されている。

【資料番号〇〇七】京都付近地図

内題…「京都付近地図 保科国語読本教授用直観掛図 縮尺五万分之一」

外題…京都付近図

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…一二・〇×五九・五 cm

解説…京都市街地を中心に簡略化した地図に、主な寺社や山などが記されている。

【資料番号〇〇八】弓矢図

内題…「弓矢図 国語読本教授用直観掛図」

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…九一・五×八〇・〇 cm

解説…弓と矢について、それぞれの部位と様々な矢先や矢羽が名称とともに描かれている。

【資料番号〇〇九】奈良附近地図

内題…「奈良附近地図 保科国語読本教授用直観掛図 縮尺一万五千分之一」

外題…奈良附近(ペン書)

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…九二・〇×七九・〇 cm

解説…奈良の市街地を中心として線路図とともに簡略化した地図に、主な寺社や山などが記されている。

【資料番号〇一〇】内裡の図

内題…「内裡の図 国語読本教授用直観掛図」

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…一一三・〇×五九・五 cm

解説…内裡の配置図にそれぞれの殿や門の名称が記されている。

【資料番号〇一二】 山伏服装図

内題…「山伏服装図 国語読本教授用直観掛図」

外題…山伏（ペン書）

発行元…合資会社育英書院

刊記…「合資会社育英書院 東京神田小柴印行」

外寸…九一・〇×七九・〇 cm

解説…山伏が描かれ、その服装や持ち物の名称が記されている。

【資料番号〇一二】 林子平詠歌の書画写

「親もなし 妻なし子なし はん木なし かねもなければ 死にたくもなし 六無斎」

外寸…一五三・〇×三三・〇 cm

解説…この和歌は、江戸時代後期に海防論を説いたために幕府の忌憚に触れた経世思想家である林子平（一七三八—

七九三）が幕府により『海国兵談』の板木、製本を没収されるとともに蟄居を命じられたときに、自らを親・

妻・子・版本・金・死の六つがない、六無斎と号して詠んだものである。『海国兵談』が五百年後にも読まれ

る日本兵法の花となるようにと蓋紙に朱印にて足した歌とともに千部発行を目標としていた「千部施行」印も同様に記されている。

【資料番号〇一三】藤田東湖遺墨「西行銀猫賛」の拓本もしくは版画

外題…東湖筆蹟（ペン書）

外寸…一八六・〇×四〇・二cm

解説…平安時代後期の遁世歌人である西行法師（一一八一—一九〇）が、源頼朝から贈られた銀製の猫を外にいた子どもに与えてしまうことから、彼の旅と歌の世界だけが捨てられないといった人生の真髓を表すエピソードをモチーフとして、漢詩、絵画、和歌が描かれている。

画面上段には、水戸藩九代藩主徳川斉昭（一八〇〇—一八六〇）の腹心にして尊王攘夷論や「国体」論を唱えた水戸学の代表的学者である藤田東湖（一八〇六—一八五五）が「題西行書」として詠んだ五言絶句を書く。落款は、「藤田彪題」に「藤田彪印」（陰刻）、「斌卿」（陽刻）を捺す。画面中央には、菊池容斎（一七八八—一八七八）が旅立つ西行法師と銀猫をもらった子どもの姿を描いている。画面下段には、西行法師について詠んだ和歌を書く。

【資料番号〇一四】萬世師表の拓本もしくは版画

内題…「萬世師表」「幹闕御筆印宝」との印あり

外題…Confucius（ペン書）

外寸…一二五・〇×五九・五cm

解説…八世紀前半、唐の時代に活躍した宮廷画家の唐吳（呉）道子（生没年不詳）の書いた孔子像が画面中央にある。これは、曲阜孔子廟の孔子像であり、原拓本は「光師孔子行教像」という表題が付せられている。



【資料番号〇一五】藤田東湖自筆「和文天祥正気歌」の拓本もしくは版画

外寸…一九五・〇×六八・七cm

解説…藤田東湖が、一八四五(弘化二年)、蟄居中に詠んだ五言七十四句から成る長編の漢詩。

東湖は、幼少期に父幽谷から文天祥(二三六—一二八二、中国南宋末期の軍人・政治家)の「正気歌」を繰り返し教え込まれていたため、獄中の文天祥に自分自身を準えて、その詩に韻を合わせて自らの「正気」(忠君愛国の道義的精神)を詠んだのである。落款は、「二月辛酉藤田彪書」に「藤田彪書」(陰刻)、「斌卿」(陽刻)を捺す。

【資料番号〇一六】歌人系譜図

外寸…〇大 一八九・六×一二・四cm    〇小 六七・四×一二・四cm

解説…大・小の二枚一幅となっている。小さい方には、ふちに三つ葉のクローバーの装飾が施してあることや手書きであることなどから判断すると、神戸女学院の手製のものであると考えられる。

佐々木信綱(一八七二—一九六三)が、父広綱から継承した竹伯会を始祖とする歌人の系譜図。中でも、佐々木信綱、木下利玄(一八八六—一九二五)、北原白秋(一八八五—一九四二)、前田夕暮(一八八三—一九五二)、太田水穂(一八七六—一九五五)の五人に関しては、詠んだ和歌がそれぞれ一首ずつ書かれている。その和歌が詠まれた時期として、最も年代の新しいものが一九一八(大正七)年であることから、この系譜図の作成時期は、少なくとも一九一八年以降であると推察する。

### 三、掛図にみる戦時下の教育

神戸女学院が、現在の岡田山キャンパスに移転した一九三三(昭和八)年という年は、すでに満州事変が勃発してお

り、国内でも軍部の力が強大なものとなり、国家主義と国家神道の風潮が強まっていく時でもあった。学校教育にもその影響が及ぶようになっていくのであるが、それはミッシヨンスクールも例外ではなかったのである。

まず、ミッシヨンスクールにおいても、国家主義の影響が及んでいたことを示す事例として、一九三七(昭和一二)年から実施された「国民精神総動員の日」の広田神社への参拝がある。その背景には、一九三七年の日中全面戦争とともに、日本戦勝祈願と国威宣揚をスローガンとする国家主義の風潮が強まり、毎月一日に日本の戦勝祈願のため、神社参拝を要求されたことがある。神戸女学院の生徒も神社参拝は愛国心と忠誠心の現れであることから、自発的に参拝したり、境内の清掃を奉仕したりする者もいたのである。さらに、県庁からの通達により、学院に御真影を奉戴する奉安殿が造営されたのも一九三七年であった。その後も、さらに学校教育のあらゆる面で戦時体制がしかれていくことになるのだが、紙幅の都合上、詳述は他日を期したい。

では、国家主義や国家神道は実際の教育の場にどのような影響を与えていたのかという点について、発見された掛図の中の数点から若干の検討を試みる。

まず、【資料番号〇〇一】の掛図に注目してみる。これは、内題から戦時下において学校で使用されていたものであると推察できる。さらに、神戸女学院で使用されたのは印記から判断すると一九四四(昭和十九)年から終戦までというわずか一年足らずの短い期間ではないかと考えられる。

神戸女学院にとって、一九四四年とは学院年間標語が慣例を破り聖書以外から選定され、海軍大将であった山本五十六の座右銘「常在戦場」であったことから、戦時体制の影響がミッシヨンスクールにまで大きな影響を与えた年であつたといえる。

次に、【資料番号〇一四】の掛図に注目する。これと同様に、一九三四(昭和九)―一九三九(昭和十四)年発行の尋常

小学修身掛図の第六学年用下「第十七 徳器」として、孔子が教材として用いられている。このことから、孔子は「忠孝」や「道徳」の崇敬の対象として、それをさし示しつつ、教訓するために修身科目の教材として使用されていたと考えられる。女子教育においても、「国体ヲ尊崇」するための教科である「修身科目」<sup>⑥</sup>は、「行いを正し、身を修めるという極めて儒教的な『訓育』」<sup>⑦</sup>がなされるために重要だったのである。

最後に、【資料番号〇一五】の掛図に注目する。これは、藤田東湖が、自らの「正氣」を詠んだ歌が書されている。この歌は、一九三七（昭和十二年）に文部省が国民教化のために編纂した『国体の本義』において、水戸学とともに紹介されたこともあり、広く知られていたと考えられる。しかし、神戸女学院の教育の場に、この掛図が導入された年代が特定できないために、『国体の本義』刊行より以前から使用されていたのかどうかは判断できない。

検証の結果、一九三三年頃から戦局の拡大とともに強まっていった国家主義の影響を、キリスト教主義の神戸女学院においても免れえなかったのは事実である。しかしながら、今回着目した三点の教育的掛図の資料からは、それが実際にどのように使用されていたのか、ということを窺い知ることはできない。そのため、国家主義の影響が実際の教育の場にどれほど及んでいたのか、という具体的な検討が不十分である。今後、さらなる史料との比較検証が必要であると思われる。

また、所蔵する教育掛図は、歴史を物語る資料として、また戦時下における女子教育とはどのようなものであったのかを問う資料として、大切に保存し、未来に語り継いでいかなければならない。

註

- ① 佐藤秀夫「総説―掛図の研究・序説―」（佐藤秀夫、中村紀久二編『文部省掛図総覧』（東京書籍、一九八六年）、五一―六頁。前掲書、六頁。
- ② 前掲書、二〇頁。
- ③ 京都大学では、二〇〇五（平成十七）年から二年にわたり、人間・環境学研究科総合人間学部図書館に所蔵されている旧制第三高等学校時代の二九四点もの教育掛図を整理し、調査研究を進めてきた。その調査研究の成果をもとに、二〇〇七（平成十九）年に京都大学総合博物館との共催で「眼で学ぶ、絵で教える 京都大学所蔵近代教育掛図展」を開催し、改めて教育掛図の史料価値を見出している。さらに、京都大学電子図書館（<http://edb.kuilib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/kakezu/>）において、「京都大学所蔵近代教育掛図」として資料を公開しているので参照されたい。
- ④ 同様に、金沢大学においても、附属図書館所蔵の旧制第四高等学校の教育掛図を整理し、調査研究が進められており、金沢大学電子図書館（<http://edb.kuilib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/kakezu4ko/index.html>）において、「金沢大学所蔵近代教育掛図・印刷図編」として資料を公開されているので参照されたい。
- ⑤ 神戸女学院百年史編集委員会編『神戸女学院百年史 総説』（神戸女学院大学、一九七六年）、二二六頁。
- ⑥ 眞有澄香『読本』の研究―近代日本の女子教育』（おうふう、二〇〇六年）、七一頁。
- ⑦ 前掲書、七九頁。

（図書館職員）